

2018 NAVI ミニム海外キャンプ活動報告書

兼 第26回ドイツケーニヒ杯結果報告

報告者 岩橋 恵美

■派遣期間

2019年3月3日（日）～2019年3月12日（火）

■派遣先

ドイツ国ハレ市

■派遣者

団長：齊藤三枝子

コーチ：岩橋恵美

添乗員：石上由香里

参加者：千葉忠輝、田中拓進、小池悠太郎、清原崇史
弓長皇美子、金高生幸、久保田未織乃、竹田あかり

■キャンプ地

The Fencing Center Halle

Rennbahnring 51, 06124 Halle (Saale)

■宿泊先

B&B Hotel Halle (Saale)

Hallorenring 9, 06108 Halle (Saale)

■日程

1日 目	3/3(日)	10:30	羽田空港集合	羽田空港国際線ターミナル	
		10:50	結団式		
		12:45	羽田空港発	LH715 便	
		14:45	ミュンヘン着		
		18:55	ミュンヘン発	LH2170 便	
		19:50	ライプチヒ着		ハレ協会手配車にて送迎
		21:00	ホテル着	B&B ホテル	
2日 目	3/4(月)	10:20	朝食／集合	ホテルロビー	
		午前	市内異文化歴史見学	チョコレート博物館	電車約15分
		昼食／休息	イタリアン	徒歩5分	

		18:00~20:00 練習	ハレクラブトレーニングジム	徒歩&電車約 30 分
		21:00 夕食	サブウェイテイクアウト	徒歩 5 分
3 日 目	3/5(火)	(一日練習日)		
		9:00 朝食/集合	ホテルロビー	
		10:00~12:30 午前練習	ハレクラブトレーニングジム	徒歩&電車約 30 分
		12:30 昼食・補食	同上	
		15:00~18:00 午後練習	同上	
		20:00 夕食	ケバブテイクアウト	徒歩 3 分
4 日 目	3/6(水)	(一日練習日)		
		8:00 朝食/集合	ホテルロビー	
		9:00~12:00 午前練習	ハレクラブトレーニングジム	
		12:00 昼食・補食	同上	
		昼食後 コインランドリー		徒歩&電車片道約 40 分
		15:00~19:00 午後練習	同上	
		21:00 夕食	ホテル 1 階スーパーにてテイクアウト	
5 日 目	3/7(木)	(一日練習日)		
		8:00 朝食/集合	ホテルロビー	
		9:00~12:00 午前練習	ハレクラブトレーニングジム	
		12:00 昼食・補食	同上	
		15:00~18:00 午後練習	同上	
		21:00 夕食	ホテル 1 階スーパーにてテイクアウト	
6 日 目	3/8(金)	7:10 朝食/集合	ホテルロビー	
		午前・午後：市内異文化・歴史見学	ドレスデン	電車・特急電車 片道約 2 時間
		(昼食)	空中レストラン	約 1 時間
		17:40 集合	ホテルロビー	
		18:00~20:00 武器検査・練習調整	Sporthalle Brandberge	ハレ協会手配車にて送迎
		21:00 夕食	ホテル 1 階スーパーにてテイクアウト	
	7 日 目	3/9(土)	7:20 朝食/集合/試合会場へ出発	ホテルロビー
ケーニヒ杯 (B-youth men/women)			Sporthalle Brandberge	

		8:10 アップ・ポイントレ ッスン		
		9:00 男子フルーレ予選プ ール開始		
		9:00 女子フルーレ予選プ ール開始		
		(昼食) 試合会場内にて		
		11:00 男女トーナメント		
		15:00 大会 1 日目終了		ハレ協会手配車にて送迎
		18:00 夕食	カフェテリアビュッフェ	徒歩 7 分
8 日 目	3/10(日)	7:20 朝食/集合/試合会 場へ出発	ホテルロビー	ハレ協会手配車にて送迎
		ケーニヒ杯 (Cadets men/women)	Sporthalle Brandberge	
		8:10 アップ・ポイントレ ッスン		
		9:00 男子フルーレ予選プ ール開始		
		9:30 女子フルーレ予選プ ール開始		
		(昼食) 試合会場内にて		
		12:00 男女トーナメント		
		16:00 大会 2 日目終了		ハレ協会手配車にて送迎
		18:00 夕食兼祝勝会	ハレッシュブラウンハウス	徒歩 10 分
9 日 目	3/11(月)	9:40 朝食/荷物整理/集合	ホテルロビー	
		10:00 ホテルチェックアウ ト/空港へ		ハレ協会手配車にて送迎
		12:30 (13:00 発) ライプチヒ発	LH2167 便	出発便の機体点検のため 遅延
		13:50 (14:00 着) ライプチヒ着		
		15:30 (16:00 発) ミュンヘン発	LH714 便	国内 LH 便の遅れのため 遅延
10 日目	3/12(火)	10 : 55 (11:20 着) 羽田空港着	羽田空港国際線ターミナル	
		解団式		

■生活面

長時間のフライトであったが遠征期間中は体調不良を訴える子供もなく、全メニューひとりも欠けることなく参加できたことは大変良かった点と言える。ただ現地に着いてから3日間ほどは、時差と水・食事に慣れず「疲れ」を訴える子供も多かった。できるだけ子供が少しでも多く食べられる食事を摂ることに心がけた。滞在先ホテルの1階がスーパーマーケットであったことから、生活用品の不足品や果物、飲み物などが容易に購入できたことは大変ありがたかった。練習が始まってからは毎日数種類の果物等を購入し補食として練習場まで持参していたが、次回からは練習後の夕食の摂り方を工夫したい。

男女問わずとても仲の良いメンバーであったため、良いことも悪いことも全員で協力しあっていたことがとても印象的だった。荷物の上げ下ろしや、朝の集合、探し物などお互いを助け合い、声を掛け合うことでより仲間意識が芽生え、日を追うごとに良い雰囲気となっていた。ただ、その周りの優しさに甘え続け、最後の最後まで生活面での成長が見受けられなかった子供がごくわずかにいた。今回のドイツ遠征ではフェンシングの成長だけでなく、親から離れ小学生高学年としての成長にも注力していたため、一部にその意識の改善にまで至らなかったことは非常に残念である。

■キャンプ

例年同様、ハレ協会ならびにハレクラブには大変お世話になった。練習拠点は遠征期間中1か所のみ、フェンシング道具もロッカールームに保管させてくれたため行き帰りの移動がとても楽であった。

ハレクラブのメインコーチが予め3日間のキャンプメニューを組んでくれており、指示はドイツ語と英語、アップやトレーニングには楽しみながら身体を動かすことができるよう随所に工夫がみられた。午前中は持久力や瞬発力をつけるゲームやトレーニングからはじまり、基本動作を学ぶフットワーク、テーマファイティングにつなげる。午後はアップをし、全体で30人を超えるミニム・カデの選手が長時間の集中力を問うファイティングをするなど、毎日異なるテーマが与えられるためキャンプはとても充実したものであった。今回の遠征は toto の助成金を使用しキャンプメインの遠征であったが、まさにその名目通りの内容であったといえる。

■ケーニヒ杯

キャンプの成果を発揮するという位置づけの大会出場ではあったが、試合となるとみんな勝ちたいと思うのが当然であり、朝から少し緊張している様子も見受けられた。試合開始15分前にはモニターに組合せとピストが表示されるため、選手は各自でモニターを確認して準備を行った。U-13では男女ともに予選上位で通過し、安定してエリミを迎えた。男子は途中で日本人対決となったため惜しい部分があったが、女子はベスト4を日本人4人が占め、存分に力を発揮した。集大成として迎えたU-17では、自分より体格が勝る相手に大苦戦した。しかしながらキャンプではカデ選手と一緒に練習をしていたこと、15本勝負の体力練習を重ねていたことから戸惑うことなく思い切って勝負をしていたように感じた。

試合の用具に関して最新のFIEビブ付きマスクおよびFIEソフトカバー付きチェストプロテクターの着用が義務付けられていた。また最新のFIE競技規則(2018.12:対戦無意欲ルール)を採用していたが、どちらもキャンプ期間中にハレ協会と確認できたため、大会当日に混乱することなく対応できた。

(ケーニヒ杯結果)

	名前	所属クラブ	B-youth U-13	Cadets U-17	チーム総合
男子	千葉 忠輝	青山クラブ	1位/31	53位/103	1位
	田中 拓進	柿の木台スケルマ	3位T/31	8位/103	
	小池 悠太郎	南箕輪わくわくクラブ	2位/31	50位/103	
	清原 崇史	本吉フェンシングクラブ	6位/31	51位/103	
女子	弓長 皇美子	名電 Jr フェンシングクラブ	1位/32	12位/66	
	金高 生幸	香川 Jr FC	3位T/32	1位/66	
	久保田 未織乃	杉並 Jr フェンシングクラブ	2位/32	13位/66	
	竹田 あかり	はしまモアFC	3位T/32	17位/66	

■おわりに

今回のドイツ遠征に際して、ご尽力いただいたすべての皆様に感謝を申し上げたい。

日本フェンシング協会事務局ならびにミニム部会の皆様には、渡航事前準備からハレ協会との調整を出発ギリギリまでご対応いただいたことで、現地において混乱することなく有意義なキャンプができた。また、ハレクラブのコーチ・選手・保護者には控えめな日本人選手を常に気遣っていただき、これ以上のないおもてなしを受けた。日本人選手の保護者の皆様にも全員元気に遠征出発をさせてくれたこと、現地においても SNS で応援サポートをしてくれたことも現場で明るい力になった。

今後もドイツハレ協会と良好な関係が続き、日本の子供たちの育成につながっていくことを切に願う。

